

第1回おおさかプラスチック対策 推進プラットフォーム会議

2021年9月29日（水）
（15分）

全国清涼飲料連合会

一般社団法人 全国清涼飲料連合会 (略称：全清飲)



【一般社団法人 全国清涼飲料連合会】

清涼飲料水製造企業の会員ならびに関連する業界の賛助会員で構成。前身母体の全国清涼飲料水同業組合の時代から数えると100年以上の歴史をもつ清涼飲料水の業界団体です



【2020年 清涼飲料水業界】

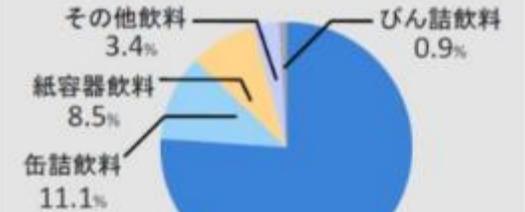
加工食品トップクラスの大きな産業

生産者販売金額
3兆7978億円

生活のあらゆるシーンでの水分補給

総生産量 21,579千kl
1人1日あたりの消費量 469ml

容器別生産量シェア



ペットボトル飲料シェア
76.0%

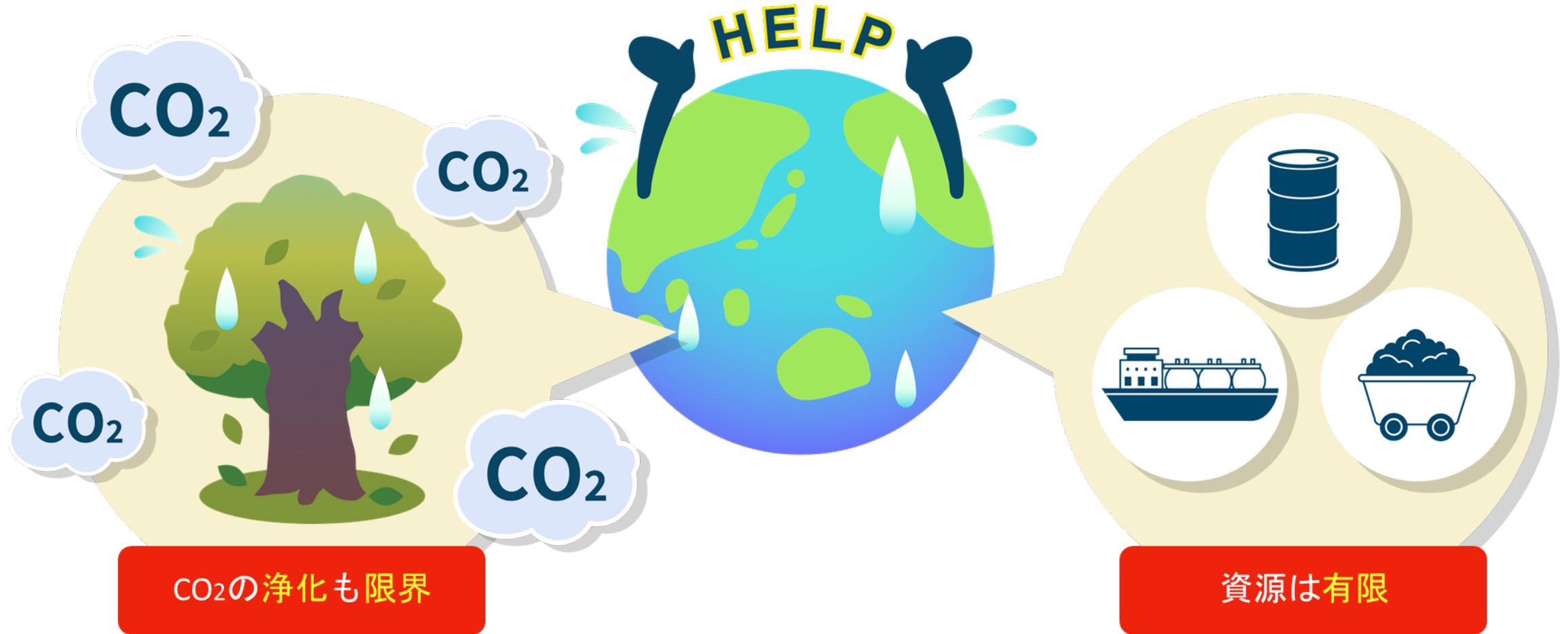
全国清涼飲料連合会の目指す姿

サーキュラー【循環】& エコロジカル【共生】・エコノミー

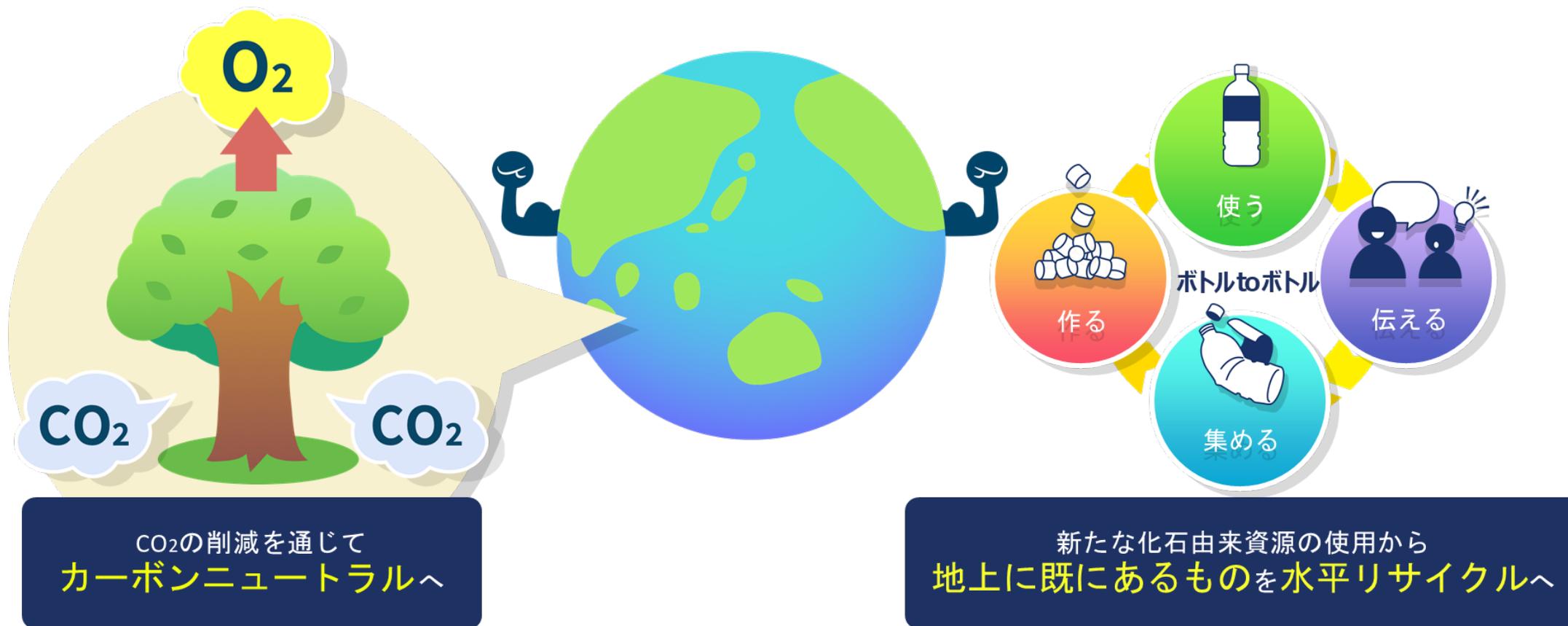
において、世界トツプランナーを目指す



地球の限界は人類の限界



新たな化石由来資源の使用から 地上に既にあるものをうまく再活用していく世界へ



でも、ペットボトルのリサイクルは、昨今、
急にに取り組みだしたわけではない

清涼飲料業界のペットボトルのリサイクルの取り組みは

29 年前にも遡り開始

環境配慮設計としての自主設計ガイドライン

29年前より清涼飲料業界とPETボトル事業者団体は協働で制定・運営してきた

1992

運用

初版制定

指定PETボトル
の
自主設計
ガイドライン

ボトルはPET単体素材

ボトルに着色はしない

容易に押しつぶせる構造が望ましい

ベースカップは使用しない

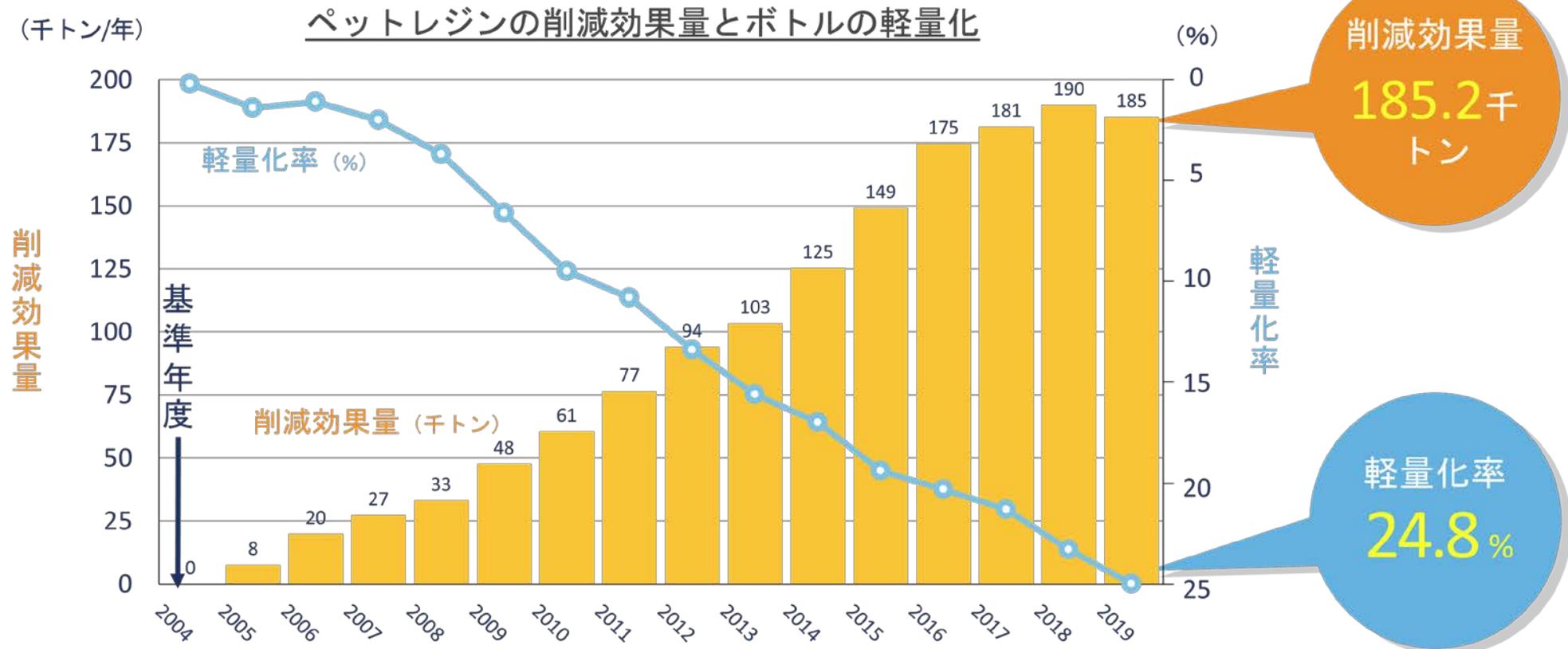
ボトル本体への直接印刷は行わない

シュリンクラベルである場合はミシン目入りであることが望ましい

アルミキャップは使用しない、等



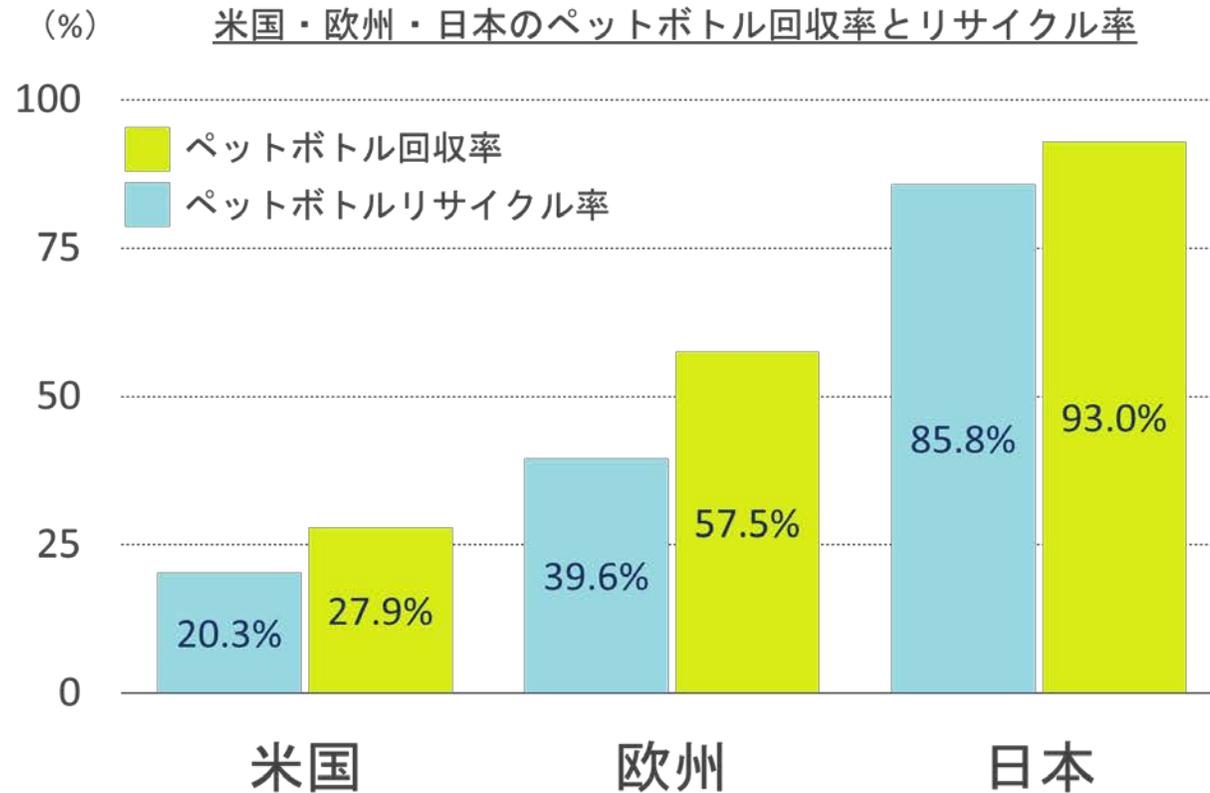
- ☑ ペットレジンの使用量の軽減を徹底的に追及
- ☑ 2004年比で約25%のボトル軽量化を実現してきた



出典) PETボトルリサイクル推進協議会

ペットボトルの回収率ならびにリサイクル率では 既に世界でもトップレベル

☞ サークュラー&エコロジカル・エコノミーの基礎は構築できている



出典) PETボトルリサイクル推進協議会
 欧州: Wood Mackenzie社
 米国: NAPCOR(National Association for PET Container Resources)

「2030年までにペットボトルの100%有効利用」を宣言

(2018年11月)

【宣言内容】

清涼飲料業界は、「清涼飲料業界のプラスチック資源循環に対する基本的な考え方」を基に、陸域・海域の散乱問題も踏まえ、お客様、政府、自治体、関連団体等と連携しながら、2030年度までに**ペットボトルの100%有効利用**を目指し、短・中・長期に方向性を定め、プラスチック資源循環に真摯に取り組むことを宣言します。

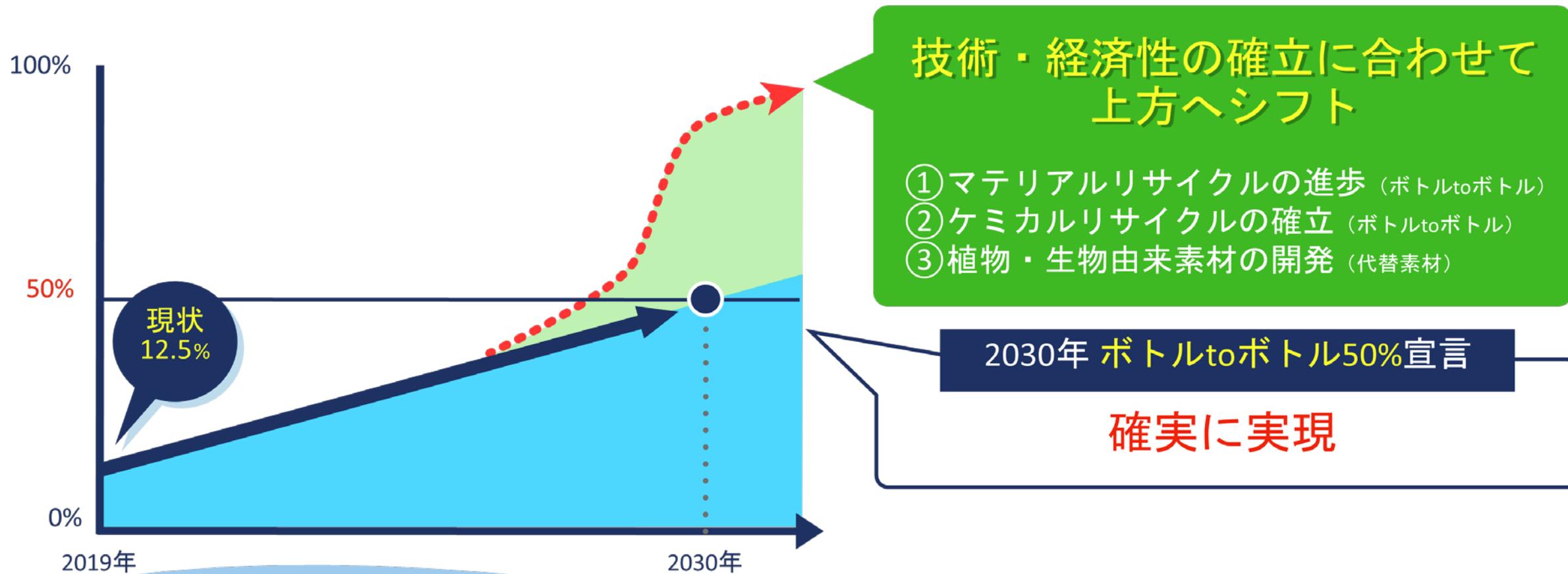
2019年度



※有効利用とは、リサイクル+熱回収

2021年4月

2030年ボトルtoボトル比率50%宣言



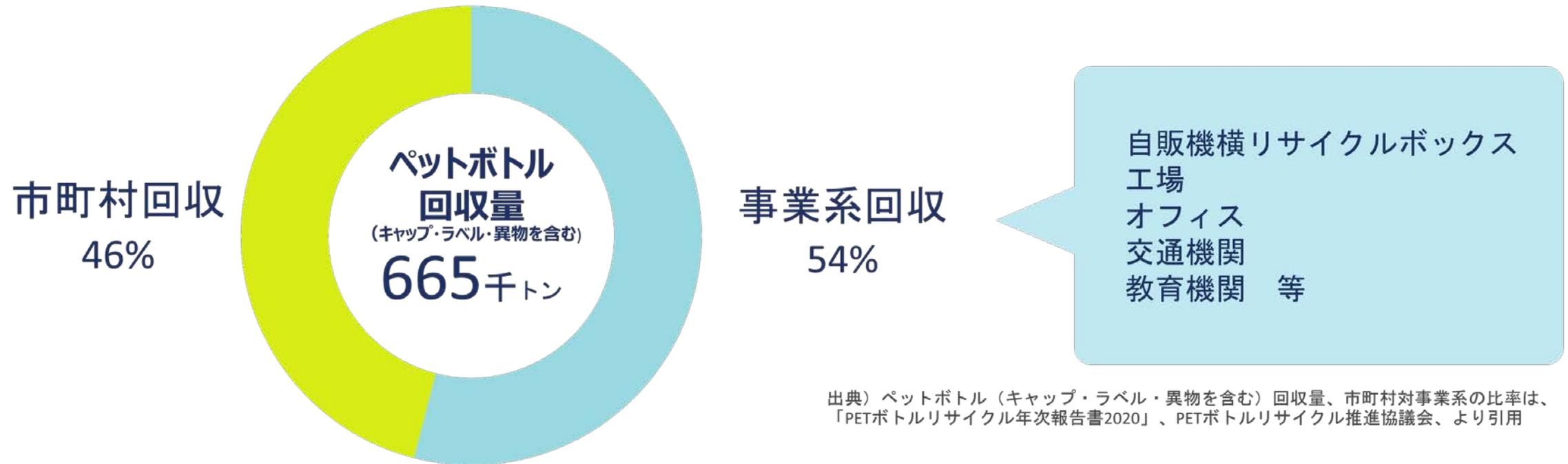
2030年ボトルtoボトル50%宣言は CO₂削減宣言でもある

現時点の技術でも、すでに**56%~63%**のCO₂削減、更なる削減に取り組む



ターゲットは**事業系**でのペットボトル回収量と品質の向上

2019年 市町村系・事業系ペットボトル回収比率（キャップ・ラベル・異物を含む）



出典) ペットボトル (キャップ・ラベル・異物を含む) 回収量、市町村対事業系の比率は、「PETボトルリサイクル年次報告書2020」、PETボトルリサイクル推進協議会、より引用

「理想とする回収モデルは異物がない回収」

集めたペットボトルはできる限り
ペットボトルに戻したい

【作る】過程で歩留ロスが発生し、
全てがペットボトルに戻せない

歩留ロスの
最大の原因は**異物**

異物のないきれいなペットボトルの回収が地上資源の有効活用最大化の鍵



異物が入っていない



キャップ・ラベルが
外されている



飲み残しがない

2020年「ボトルtoボトル 東京プロジェクト」 実証実験



実証実験 1
新デザイン・リサイクルステーション

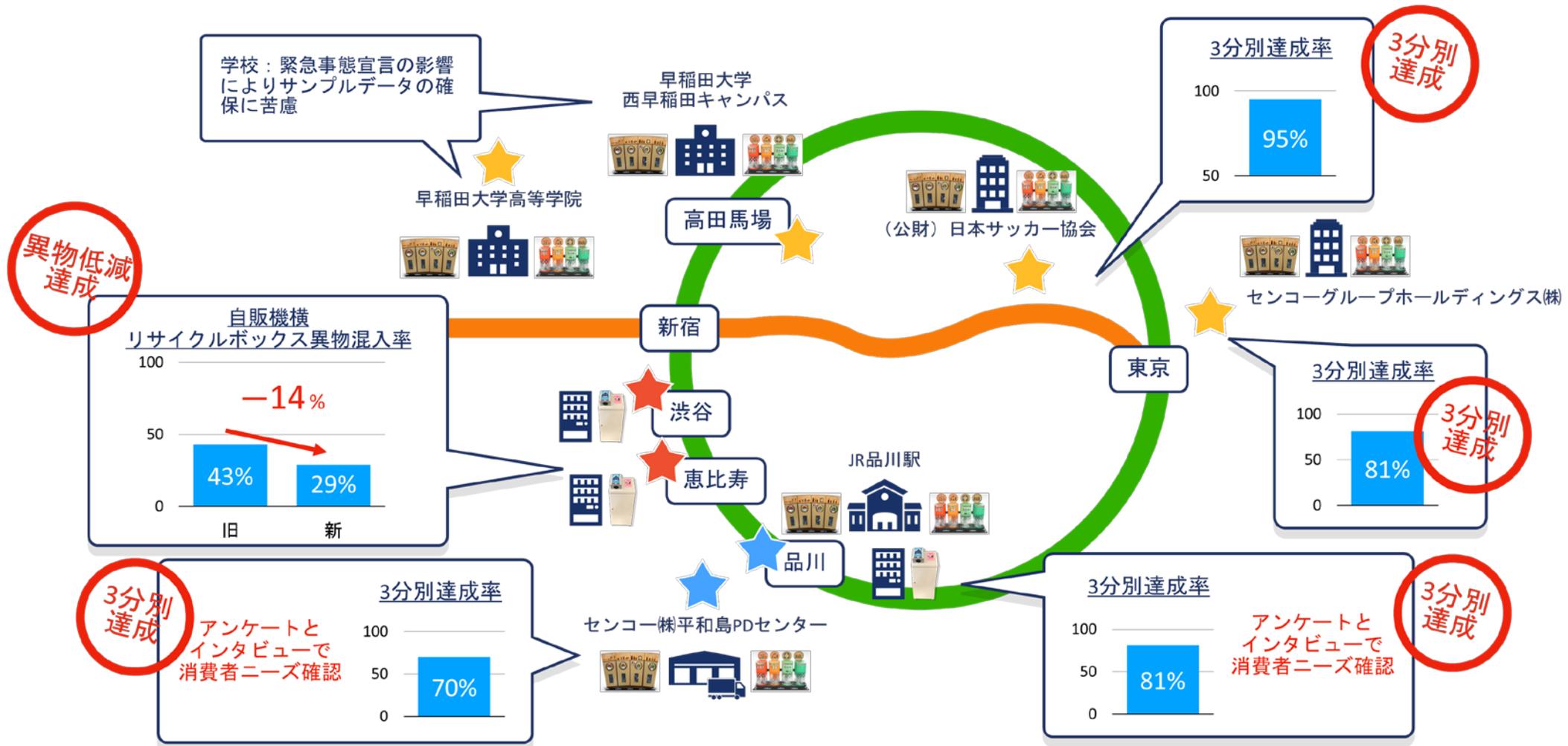


実証実験 2
新デザイン・リサイクルボックス



東京都との協働プロジェクト
農林水産省令和2年度食品産業プラスチック資源循環対策事業

2020年「ボトルtoボトル東京プロジェクト」 結果、総括



自動販売機横のリサイクルボックス異物低減策の更なる進化へ

自動販売機リサイクルボックス 異物低減プロジェクト2021 【RFRプロジェクト】

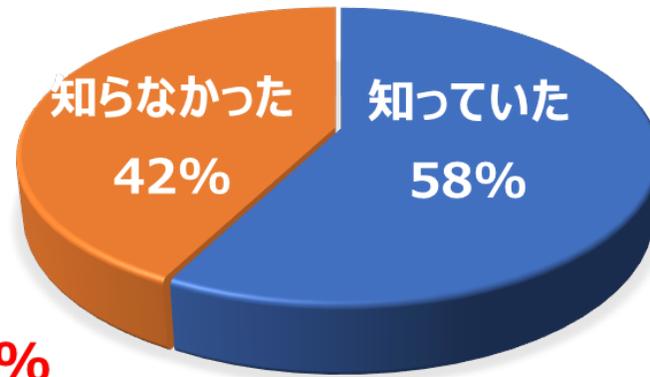
Recycle for Foreign materials Reduction

リサイクルボックスに関する消費者意識調査2020

2020年9月1,000名

42%がゴミ箱

「リサイクルボックス」と知らなかった42%



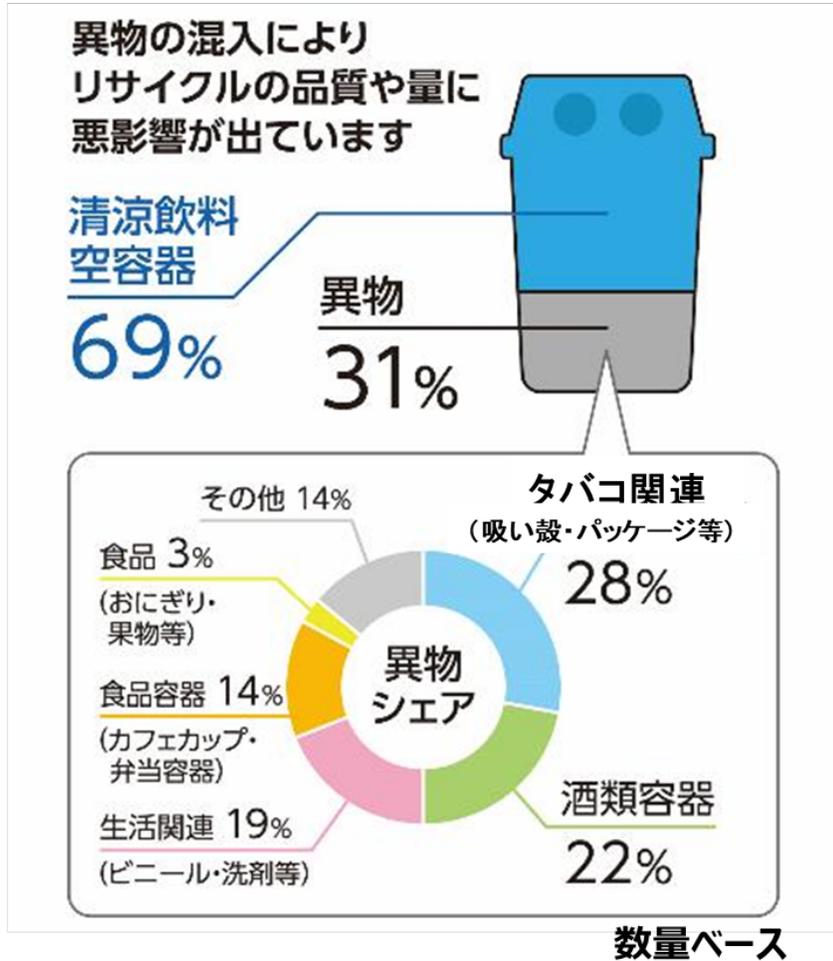
ゴミが出た場合、どこに捨てる？
「自動販売機にあるボックス」53%

ボックスにゴミを入れた理由
「捨てる場所がなかった」
「ポイ捨てよりはまし」など

街からゴミ箱が消え**回収量**が増加

リサイクルボックスの異物は31%

2018年12月東京都内にて調査



異物が入ると、本来入るべき
空容器が入りません
散乱の原因になります

異物により再利用品の
品質が低下します

異物のために分別現場が
困っています



自動販売機リサイクルボックス異物低減プロジェクト2021

2021年度 新機能リサイクルボックス



2020年度 モデル



脱ゴミ箱
カラー

ステッカーによる
啓発

連結口



投入口が見えない

投入口径の最小化
85mm

スチール製からプラス
チック樹脂製

2022年秋 業界統一仕様へ！

一部リサイクルボックスではキャップとラベルの分別回収も実証実験

2021年8月2日記者会見説明資料より抜粋

キャップ・ラベル分別回収ボックス

新機能リサイクルボックスにキャップとラベルを分別回収するボックスを併設し、
利用される方のキャップとラベルの分別が行われるか、行動変化を検証します。

ラベル専用投入口

▶ラベル用であることがわかりやすい形状

透明仕様

▶投入されたものが一目でわかる

分別を明示したステッカー啓発

▶利用する方に伝わりやすく



キャップ専用投入口

▶キャップ用であることがわかりやすい形状

結束バンドで頭部を固定

▶大きな異物を入れられない

<仕様>

材質 PET (ペットボトルリサイクル材約50%)

容量 90リットル

サイズ W442×D480×H785mm

自動販売機リサイクルボックス異物低減プロジェクト2021

静岡県浜松市 8月23日～ 9月19日 前半2週間既存・後半2週間新機能

愛知県岡崎市 9月13日～ 10月10日 同

回収頻度 個機別設定
投入物 個数カウント
※酒類容器異物
異物 種類別カウント



☆ 三重県「ペットボトル協働回収モデル事業受託（9月～）」



自動販売機リサイクルボックス異物低減プロジェクト2021

三重県：ペットボトル協働回収モデル事業

目的：県内において排出されるペットボトルを水平リサイクルする仕組みの構築

ボトルtoボトルに向けた地域住民の行動変容を促すための効果的な啓発手法の検証

自販機回収

+

行政回収

+

民間回収

協働回収

県内リサイクル施設で
ボトルtoボトルへ

自動販売機リサイクルボックス異物低減プロジェクト2021は初めての異業種連携プロジェクトでもある

行政

農林水産省

啓発協力

日本たばこ産業

リサイクルボックス

アートファクトリー玄



全国清涼飲料連合会

キャップ

日本クロージャー

ラベル

フジシール

自動販売機

日本自動販売協会

異業種連携

リサイクルボックス、ペットボトルの中へのたばこ吸い殻混入低減対策

イベント開催、メッセージ掲示、ポケット灰皿配布でマナー啓発活動を実施

**実証実験の後期に合わせ 実施場所の周辺において
たばこ吸い殻の灰皿への適切な処理、喫煙場所の利用を啓発する活動を実施します。**

※下記の啓発活動の実施を検討しております。 ※実施内容は各都市で変わる可能性があります。

美化イベント「ひろえば街が好きになる運動」を開催、ポケット灰皿を配布し啓発

周辺のたばこ販売店等で、ポケット灰皿を配布し啓発

公共喫煙所にて、マナーメッセージを掲示し啓発

実施箇所の自販機横等にて、灰皿を設置し啓発

リサイクルボックス、ペットボトルの中へのたばこ吸い殻の混入状況の変化を検証します。

たばこ吸い殻の混入防止対策のイメージ



美化イベントイメージ



ポケット灰皿デザイン



マナーメッセージデザイン



本プロジェクト参画目的



ラベル回収方法



中間処理業者にてラベルの分別を行い回収



専用回収ボックスから直接回収

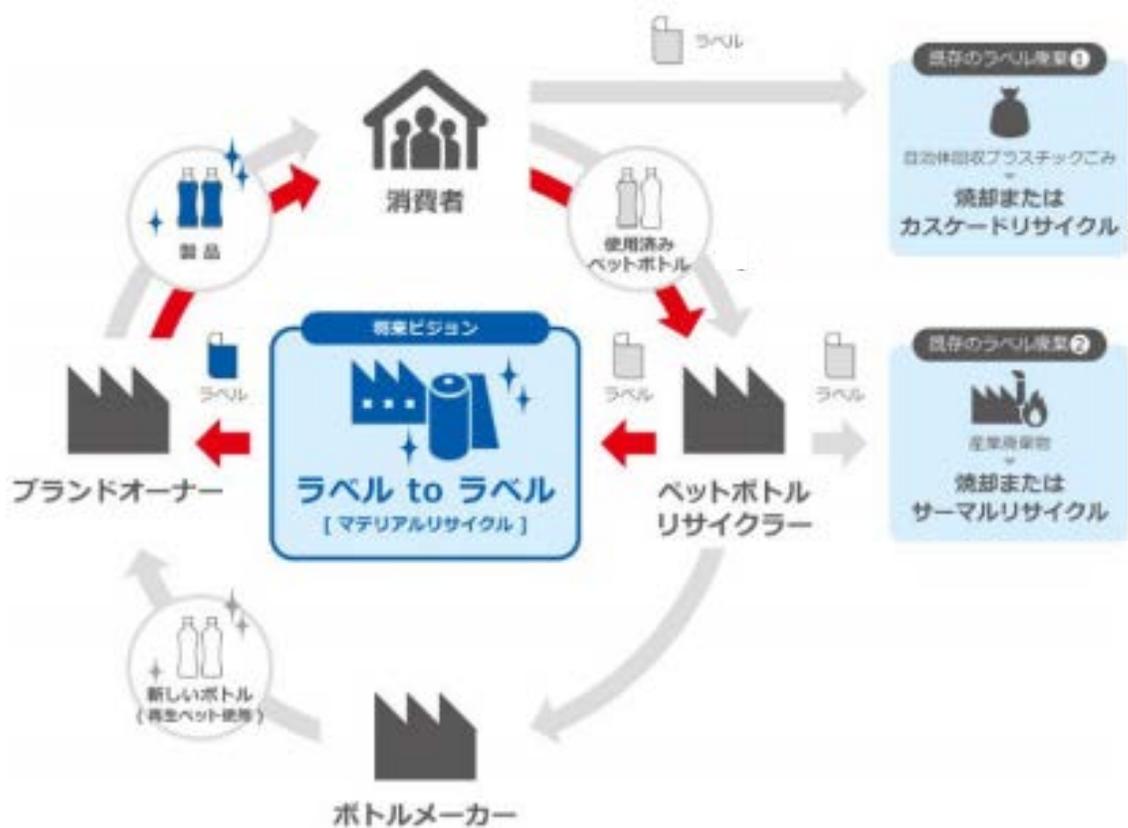
今回の目的

- 各々のラベルの分別率
- 各々で回収されるラベルの品質状況

いずれの回収方法でも、回収ラベルを再生ラベルへと利活用する開発を進めていきます

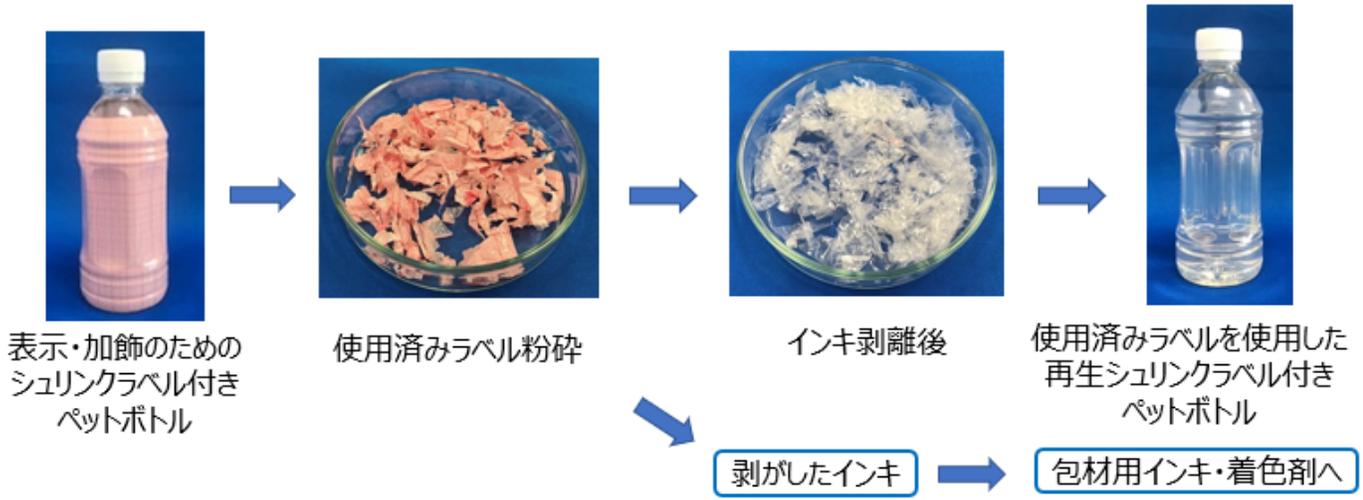
ラベルtoラベルの取り組み

パートナー企業の皆様と共同で、業界をあげて、使用済みシュリンクラベルを価値ある資源として再利用することを目的としたプロジェクトを開始しています



シュリンクラベルの資源循環についての賛同企業 (あいうえお順)

GUNZE	SAKATA INX... Visual Communication Technology	タキロンシーアイ	Dainichiseika
TOYOBO	MITSUBISHI CHEMICAL	VEOLIA	Fuji Seal





**清涼飲料業界 ペットボトルからペットボトルへの水平リサイクル
2030年ボトルtoボトル比率50%宣言**
地上の資源を最大活用してペットボトルを再生・創造する
サーキュラー&エコロジカル・エコノミーの世界のトップランナーを目指して

**日本クロージャーはキャップのリーディングカンパニーとして
全清飲様の取り組みに賛同し、将来的には
キャップの水平リサイクルを実現していきます**

2021年8月2日記者会見説明資料より抜粋



- ・Cap to Capを目指すための第一歩として
事業系で回収されるキャップの状態（分別・散乱状況、衛生性等）を把握する
- ・分別することがキャップのリサイクル性向上に寄与するか検証
- ・ボトル to ボトル比率50%以上達成に向けて、キャップとして
協力できることを模索する



この度の取り組みが清涼飲料容器全体として循環型社会実現に向けた次なるアクションにつながるよう取り組んで参ります。

2021年8月2日記者会見説明資料より抜粋

EOF